

伊良部大橋



路 線 名	一般県道平良下地島空港線
規 格	第3種3級
架 橋 位 置	起点側：宮古島市平良字久貝（宮古島）
	終点側：宮古島市伊良部字池間添（伊良部島）

橋 種	一 般 部：PC32、14径間連続箱桁橋 主航路部：鋼3径間連続鋼床版箱桁橋 中間部・取付部：中空床版橋
橋 長	3,540m
設 計 速 度	60km/h
有 効 幅 員	路肩1.25+車道6.0+路肩1.25 (m)
支 間 割	41.0+64.0+30@70.0+100.0+180.0+100.0+13@70.0+45.0 (m)
平 面 線 形	$R=\infty \sim 2,000m \sim \infty \sim 3,000m \sim \infty \sim 2,000m \sim \infty$
架 設 工 法	一 般 部：架設桁によるセグメント架設 主航路部：フローティングクレーン船による一括架設
クリアランス	長山水路：W=115.0m H=27.0m（貨物船2000DWT対象） 久松水路：W=30.0m H=7.6m（漁船10GT対象）
設 計 荷 重	A活荷重
塩 害 区 分	A-(S)
地 質 概 要	架橋位置周辺の基盤岩は島尻泥岩層、島尻砂岩層であり沖積砂層や沖積砂礫層が堆積している
事 業 費	約400億円



宮古島と海峡により隔絶されている伊良部島は、離島であるが故に医療、教育、福祉等の面において多大な不利・不便を余儀なくされ、過疎化の進行や産業の衰退等、離島特有の諸問題を抱えていた。

このような離島苦の解消を図るため、昭和49年に当時の伊良部村が架橋要請活動を初めて以来、継続的な要請活動が展開されてきたため、県は平成4年度から基礎調査等に着手し、平成12年度には一般県道平良下地島空港線として県道認定を行い、平成13年度からは着工準備調査を実施した。

伊良部大橋の建設により、不安定な海上交通から、安定性・随意性が確保された陸上交通に変わり、伊良部島の医療・教育環境の改善、生活環境や福祉の向上及び地域の活性化が図れる。また、平成17年10月に誕生した宮古島の一体化、効率的な行政、物流コストの低減や市場拡大による経済の活性化、下地島空港の利用促進など、宮古圏域の地域振興に大きく寄与するものと期待されている。

年 月 日	事 項
昭和49年	架橋要請活動始まる
平成4年	基礎調査が始まる
平成9年	道路網基本計画調査の実施
平成11年	伊良部架橋調査検討委員会の審議
平成12年7月	伊良部架橋に関する覚書の締結
平成13年3月	平良下地島空港線の県道認定
平成13年4月	事業化に向けて着工準備調査開始
平成14年3月	伊良部架橋技術検討委員会の設置
平成14年4月	第1回伊良部架橋技術検討委員会・幹事会開催
平成14年8月	第2回伊良部架橋技術検討委員会・幹事会開催
平成14年9月	第2回伊良部架橋技術検討委員会開催
平成14年10月	伊良部大橋橋梁整備事業に係る環境影響評価方法書の公告縦覧
平成15年1月	伊良部大橋橋梁整備事業に係る環境影響評価方法書の知事意見の通知
平成15年2月	第3回伊良部架橋技術検討委員会・幹事会開催
平成15年3月	第3回伊良部架橋技術検討委員会開催
平成15年3月	第4回伊良部架橋技術検討委員会・幹事会開催
平成15年11月	伊良部大橋橋梁整備事業に係る環境影響評価準備書の公告縦覧
平成15年12月	伊良部大橋橋梁整備事業に係る環境影響評価準備書の住民説明会の開催
平成16年6月	伊良部大橋橋梁整備事業に係る環境影響評価書の公告縦覧
平成17年7月	漁業補償契約の締結（県、平良市・池間・伊良部町漁業共同組合）
平成17年10月	宮古島市誕生（平良市、城辺町、下地町、上野村、伊良部町の合併）
平成18年3月	伊良部大橋起工式
平成23年4月	伊良部大橋見学ステーション開館
平成24年4、5月	主航路部側径間大型ブロック桁架設
平成25年4月	主航路部中央径間大型ブロック桁架設
平成26年9月	上部工連結式
平成27年1月31日	開通

伊良部島の概要

位 置：宮古島の北西約4km
人 口：5,376人（平成26年）
世帯数：2,717戸（平成26年）
面 積：29.05km²
周 囲：26.6km
産 業：漁業（カツオ、マグロ）
農業（サトウキビ）

受賞

平成27年度土木学会田中賞（作品賞）
平成27年度全日本建設技術協会（全建賞）



田中賞記念碑



全建賞記念碑



親柱



伊良部島側から見た伊良部大橋